

## 令和２年度第二次補正予算の概要（労働局関連）

岩手労働局

### ●雇用調整助成金の抜本的拡充（別紙１）

#### ○概要

新型コロナウイルス感染症の影響により休業する事業主を支援するため、４月１日以降に開始される賃金締切期間中の休業について、９月まで雇用調整助成金の日額上限を 8,330 円から 15,000 円まで特例的に引き上げる。同時に解雇等を行わない中小企業の助成率を 10/10 に引き上げ、緊急対応期間を９月まで延長する。

#### ○問い合わせ先

岩手労働局職業対策分室 電話：０１９－６０６－３２８５

### ●新型コロナウイルス感染症対応休業支援金の創設（詳細未定）

#### ○概要

新型コロナウイルス感染症及びそのまん延防止のための措置の影響により事業主が休業させ、休業期間中の賃金の支払いを受けることができなかった中小企業の労働者に対し、当該労働者の申請により、新型コロナウイルス感染症対応休業支援金を支給する。

#### ○問い合わせ先

コールセンター設置予定

### ●小学校等の臨時休業等に伴う特別休暇取得制度への支援（別紙２）

#### ○概要

新型コロナウイルス感染症の影響により小学校等が臨時休業となった場合に、子どもの世話をを行う保護者である労働者に有給の休暇を取得させた事業主を支援するため、小学校休業等対応助成金の日額上限を 8,330 円から 15,000 円に引き上げる。

※ 委託を受けて個人で仕事をする方が契約した仕事をできなくなった場合に支給する「小学校休業等対応支援金」の日額の引上げ（4,100 円⇒7,500 円）

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、家族の介護を行う労働者に有給の休暇を取得させた事業主を支援するため、既定予算を活用して、両立支援等助成金（介護離職防止支援コース）の特例を設ける。

#### ○問い合わせ先

学校等休業助成金・支援金、雇用調整助成金コールセンター 電話：０１２０－６０－３９９９

### ●新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置により休業する妊婦のための助成制度の創設（別紙３）

#### ○概要

新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置として休業が必要な妊娠中の労働者のために、有給の休暇制度を設けて取得させる事業主を支援する新たな助成制度を創設する。

#### ○問い合わせ先

岩手労働局雇用環境・均等室 電話：０１９－６０４－３０１０

## Press Release

令和2年6月12日

【照会先】

職業安定局 雇用開発企画課

課長：松永 久

課長補佐：宮本 淳子

(代表) 03-5253-1111 (内線 5330)

(直通) 03-3502-1718

報道関係者各位

### 雇用調整助成金の助成額の上限額を引き上げます

本日、新型コロナウイルス感染症等の影響に対応するための雇用保険法の臨時特例等に関する法律が成立しました。これに伴い、雇用調整助成金の更なる拡充を行いましたのでお知らせします。詳細は以下のとおりです。

#### 1. 助成額の上限額の引上げ及び助成率の拡充について

##### (1) 助成額の上限額の引上げについて

雇用調整助成金の1人1日あたりの助成額の上限額は、8,330円となりました。

今般、令和2年4月1日から9月30日までの期間の休業及び教育訓練について、企業規模を問わず上限額を15,000円に引き上げることとしました。

##### (2) 解雇等を行わない中小企業の助成率の拡充について

解雇等을せず雇用を維持している中小企業の休業及び教育訓練に対する助成率は、原則9/10（一定の要件を満たす場合は10/10など）となっていました。

今般、この助成率を一律10/10に引き上げることとしました。

	現行 (4/1～6/30)	見直し後 (4/1～9/30)
助成額	1日 8,330円が上限	1日 15,000円が上限
助成率	<div>○ 大企業 2/3</div> <div>○ 中小企業 4/5</div> <div>※解雇等がない場合</div> <div>○ 大企業 3/4</div> <div>○ 中小企業 9/10</div> <div>【中小企業特例】(4/8～6/30)</div> <div>・ 休業要請を受け休業する等、一定の要件を満たす場合 10/10</div> <div>・ 休業手当支払率が60%超の場合は超えている部分は10/10</div>	<div>○ 大企業 2/3(変更なし)</div> <div>○ 中小企業 4/5(変更なし)</div> <div>※解雇等がない場合</div> <div>○ 大企業 3/4 (変更なし)</div> <div>○ 中小企業 10/10</div>



(3) 遡及適用について（詳細は別添のリーフレットをご覧ください。）

ア（１）及び（２）の引上げ及び拡充については、既に申請済みの事業主の方についても、以下のとおり、令和２年４月１日に遡って適用となります。

なお、労働局・ハローワークで追加支給分（差額）を計算しますので、再度の申請手続きは必要ありません。

- |   |
|---|
| ① 既に雇用調整助成金の支給決定がなされた事業主<br>⇒ 後日、追加支給分（差額）を支給いたします。               |
| ② 既に支給申請をしているが、雇用調整助成金の支給決定がなされていない事業主<br>⇒ 追加支給分（差額）を含めて支給いたします。 |

イ ①又は②の事業主の方が、過去の休業手当を見直し（増額し）、従業員に対して追加で休業手当の増額分を支給した場合には、当該増額分についての追加支給のための手続が必要となります。

## 2. 緊急対応期間の延長について

新型コロナウイルス感染症の感染の拡大防止のため、雇用調整助成金については、令和２年４月１日から同年６月３０日までを緊急対応期間とし、各種の特例措置（※１）を講じてきました。

（※１）緊急対応期間中の特例措置

- ・生産量要件の緩和（確認期間３か月→１か月で５％減）
- ・助成対象の拡充（雇用保険被保険者でない労働者も助成金の対象）
- ・助成率の引上げ
- ・支給限度日数の特例 など

今般、緊急対応期間の終期を３か月延長することとし、（令和２年９月３０日まで延長）、上記１（２）の助成率の拡充に加え、これまでの特例措置も延長して適用することとしました。

なお、緊急対応期間の前から講じていた特例措置（※２）については、対象期間の初日が令和２年９月３０日までの間にある休業等に適用することとしました（現行は同年７月２３日までの間にあるものに適用。）。

（※２）緊急対応期間前からの特例措置

- ・クーリング期間の撤廃
- ・被保険者期間要件の撤廃 など

### 3. 出向の特例措置等について

雇用調整助成金の支給対象となる出向については、出向期間が「3か月以上1年以内」とされていますが、緊急対応期間内においては、これを「1か月以上1年以内」に緩和しました。

なお、(公財)産業雇用セクターにおいては、新型コロナウイルス感染症への対応として、「雇用シェア(在籍出向制度)」を活用して従業員の雇用を維持する企業を支援するため、「雇用を守る出向支援プログラム2020」を開始しました(詳細は別添のリーフレットをご覧ください。)

#### **【別添資料】**

- リーフレット「雇用調整助成金の受給額の上限を引き上げます」
- リーフレット「雇用を守る出向支援プログラム2020」(産業雇用安定センター)



# 雇用調整助成金の受給額の 上限を引き上げます

受給額の上限を引き上げます

(1人あたり日額8,330円⇒15,000円)

企業規模にかかわらず、  
すべての事業主に適用

解雇等せず雇用の維持に努めた中小企業への助成率を  
10/10 (100%) に拡充します

- 令和2年4月1日から9月30日までの期間を1日でも含む賃金締切期間  
(判定基礎期間) が対象です
- **すでに受給した方・申請済みの方にも適用**されます (裏面へ)
- これから支給申請を行うものは、厚労省HPの様式をご活用ください
- 雇用調整助成金だけでなく、**緊急雇用安定助成金も対象**です

＜様式はこちら＞



## 「解雇等をせず雇用維持に努める」とは

- ・ 令和2年1月24日から賃金締切期間 (判定基礎期間) の末日までに、解雇等を行っていないこと (解雇とみなされる有期雇用労働者の雇止め、派遣労働者の事業主都合による中途契約解除等を含みます。また、新型コロナウイルス感染症を理由とする解雇も含まれます)
- ・ 賃金締切期間 (判定基礎期間) の末日時点の従業員数が、令和2年1月24日から賃金締切期間 (判定基礎期間) の末日までの各月末時点の従業員数の平均の5分の4以上であること

(裏面へつづく)



## 追加支給について

支給申請はお済みでまだ支給決定されていない事業主の方

- 追加支給の手続きは「不要」です
- 差額（追加支給分）も含めて支給します

※ 審査の状況によっては、差額（追加支給分）を令和2年7月以降順次お支払いする場合があります。

## すでに支給決定された事業主の方

- 追加支給の手続きは「不要」です
- すでに支給した額との差額（追加支給分）は後日支給します  
差額（追加支給分）は令和2年7月以降順次にお支払しますので、  
今しばらくお待ちください

**支給申請がお済みの事業主の方で、過去の休業手当を見直し（増額し）**  
従業員に対し、追加で休業手当の増額分を支給した事業主の方

- 追加支給の手続きが「必要」です
- 令和2年9月30日までに次の書類をご提出ください  
「再申請書（様式）」、「支給要件確認申立書（様式）」  
「支給決定通知書の写し」、「増額した休業手当・賃金の額がわかる書類」  
「休業させた日や時間がわかる書類（対象労働者を増やした場合）」

＜様式はこちら＞



現在、非常に多くの申請をいただき順次審査をしていることから、お問い合わせを  
いただいたても、個別の手続きの状況や支給決定日などをお示しできない状況です。  
大変申し訳ございませんが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。  
また、追加支給を希望しない場合は、お手数ですが、下記「申請・お問い合わせ先」  
までご連絡ください。

申請・お問い合わせ先

都道府県労働局・ハローワーク

ご不明な点は、最寄りの都道府県労働局 職業安定部職業対策課（助成金センター）  
およびハローワークまでお問い合わせください。

雇用調整助成金

検索



# 雇用シェア（在籍型出向制度）を活用して、従業員の雇用を守る企業を無料で支援します

公益財団法人 産業雇用安定センター

## 概要

新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に雇用過剰となった企業が従業員の雇用を守るために、人手不足等の企業との間で雇用シェア（在籍型出向）を活用しようとする場合に、双方の企業に対して出向のマッチングを無料で行います。（以下「雇用」を守る出向支援プログラム2020」をご参照ください）

## 雇用を守る出向支援プログラム2020

～ 雇用シェア（在籍型出向制度）を活用して一時的に休業している労働者の雇用を守ります～

産業雇用安定センターは、新型コロナウイルス感染症の影響等により一時的に雇用過剰となった企業が雇用を守るために、人手不足の企業等との間で雇用シェア（在籍型出向制度）を活用した出向支援を無料で行います。



## お問い合わせ先

全国47都道府県の県庁所在地に当センターの事務所があり、無料で企業からのご相談を承ります。



(センターHP)

## 産業雇用安定センターとは

産業雇用安定センターは、企業間の出向や移籍を支援することにより「失業なき労働移動」を実現するため、1987年に国と事業主団体等が協力して設立された公益財団法人です。設立以来、21万件以上の出向・移籍の成立実績があります。



公益財団法人 産業雇用安定センター

業務部 業務管理課

☎ 03-5627-3600



## 新型コロナウイルス感染症による

## 別紙2

## 小学校休業等対応助成金をご活用ください

令和2年2月27日から9月30日までの間に、以下の子ども世話を保護者として行うことが必要となった労働者に対し、**有給**（賃金全額支給）の**休暇**（労働基準法上の年次有給休暇を除く）を取得させた**事業主は助成金の対象となります！**

①新型コロナウイルス感染症に関する対応として、ガイドラインなどに基づき、臨時休業などをした小学校などに通う子ども

②新型コロナウイルスに感染した子どもなど、小学校などを休む必要がある子ども

\* 詳細は裏面をご参照ください

➡ 事業主の皆さまには、この助成金を活用して有給の休暇制度を設けていただき、**年休の有無にかかわらず利用できるようにすることで、保護者が希望に応じて休暇を取得できる環境を整えていただけるようお願いします。**

**助成内容：有給休暇を取得した対象労働者に支払った賃金相当額×10/10**

具体的には、対象労働者1人につき、**対象労働者の日額換算賃金額×有給休暇の日数で算出した合計額を支給します。**

※ 各対象労働者の通常の賃金を日額換算したもの（8,330円（4月1日以降に取得した休暇は15,000円）を上限とする）

**申請期間：令和2年12月28日までです。**

- \* ①雇用保険被保険者の方用と、②雇用保険被保険者以外の方用の**2種類の様式**があります。
- \* 事業所単位ではなく**法人ごとの申請**となります。また、法人内の対象労働者について可能な限りまとめて申請をお願いします。

①支給要件の詳細や具体的な手続きは厚生労働省ホームページにて確認ください。  
申請書は、厚生労働省HPから印刷してください。（印刷できない場合はコールセンターに御連絡下さい）

※ [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_koyou\\_roudou/koyou/kyufukin/pagel07\\_00002.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_koyou_roudou/koyou/kyufukin/pagel07_00002.html)

②お問い合わせについては、下記のフリーダイヤル（コールセンター）まで

（フリーダイヤル）**0120-60-3999** 受付時間：9：00～21：00 土日・祝日含む

③申請書の提出は、**学校等休業助成金・支援金受付センター**（厚生労働省の委託事業者）に郵送（配達記録が残るもの）してください。（本社などの所在地により以下の4つに分かれます）

・関東地区（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川）

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-8-17 新槇町ビル 9F

・東北、関西、四国、中国地区（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知）

〒105-0014 東京都港区芝2-28-8 芝二丁目ビル 4階

・北陸、中部、九州・沖縄地区（新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）

〒135-0042 東京都江東区木場2-7-23 第一びる 1F

・北海道地区

〒550-8798 大阪西郵便局私書箱62号



新型コロナ 休暇支援

検索

※詐欺にご注意ください。国や委託事業者から、助成金の相談について電話などで勧誘することはありません。また、振込先、口座番号やその他の個人情報をご本人の方に電話などで問い合わせることはありません。

※雇用調整助成金も申請される方は、最寄りの都道府県労働局などでも受け付けますのでご相談ください。



## ①新型コロナウイルス感染症に関する対応として臨時休業等をした小学校等に通う子ども

### 「臨時休業等」とは

- ・新型コロナウイルス感染症に関する対応として、小学校などが臨時休業した場合、自治体や放課後児童クラブ、保育所などから利用を控えるよう依頼があった場合が対象となります。
- なお、保護者の自主的な判断で休ませた場合は対象外です

※ただし、学校長が新型コロナウイルスに関連して出席しなくてもよいと認めた場合は対象となります。

### 「小学校等」とは

- ・小学校、義務教育学校の前期課程、各種学校（幼稚園または小学校の課程に類する課程を置くものに限る）、特別支援学校（全ての部）
  - ★障害のある子どもについては、中学校、義務教育学校の後期課程、高等学校、各種学校（高等学校までの課程に類する課程）なども含む。
- ・放課後児童クラブ、放課後等デイサービス
- ・幼稚園、保育所、認定こども園、認可外保育施設、家庭的保育事業等、子どもの一時的な預かりなどを行う事業、障害児の通所支援を行う施設など

## ②新型コロナウイルスに感染した子どもなど、小学校等を休む必要がある（※）子ども

- (ア) 新型コロナウイルスに感染した子ども
- (イ) 新型コロナウイルスに感染したおそれのある子ども（発熱などの風邪症状、濃厚接触者）
- (ウ) 医療的ケアが日常的に必要な子ども、または新型コロナウイルスに感染した場合に重症化するリスクの高い基礎疾患などを有する子ども

※ 学校の場合は、学校長が出席を停止し、または出席しなくてもよいと認めた場合をいいます。

### ③対象となる保護者

- ・親権者、未成年後見人、その他の者（里親、祖父母など）であって、子どもを現に監護する者が対象となります。
- ・各事業主が有給休暇の対象とする場合は、子どもの世話を一時的に補助する親族も含みます。

※ 業種・職種を問わず、事業主に雇用される労働者が対象となります。

### ④対象となる有給の休暇の範囲

#### 日曜日、夏休みなどに取得した休暇の扱い

「①に該当する子ども」に関する休暇の対象は以下のとおりです。

- ・学校：授業日 ※日曜日や夏休み（夏休み期間が再設定された場合は、再設定後のもの）などは対象外
- ・その他の施設（放課後児童クラブなど）：本来施設が利用可能な日

「②に該当する子ども」に関する休暇の対象は以下のとおりです。

- ・授業日であるかにかかわらず、その子どもの世話をするために休暇を取得した日

#### 半日単位の休暇、時間単位の休暇の扱い

- ・対象となります。

なお、勤務時間短縮は所定労働時間自体の短縮措置であり、休暇とは異なるため対象外となります。

### 就業規則などにおける規定の有無

- ・休暇制度について就業規則や社内規定の整備を行うことが望ましいですが、就業規則などが整備されていない場合でも、要件に該当する休暇を付与した場合は対象となります。

## 年次有給休暇や欠勤、勤務時間短縮を、事後的に特別休暇に振り替えた場合の扱い

- ・対象になります。ただし、事後的に特別休暇に振り替えることについて労働者本人に説明し、同意を得ていただく必要があります。

### 労働者に対して支払う賃金の額

- ・年次有給休暇を取得した場合に支払う賃金の額を支払うことが必要です。  
助成金の支給上限である8,330円（4月1日以降に取得した休暇は15,000円）を超える場合であっても、全額を支払う必要があります。





## 事業主の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置による  
休暇取得支援助成金をご活用ください

## ▶▶助成金の対象

詳細は裏面をご参照ください

①～③の全ての条件を満たす事業主が対象です。

✓ 令和2年5月7日から同年9月30日までの間に

① 新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置として、医師または助産師の指導により、休業が必要とされた妊娠中の女性労働者が取得できる有給の休暇制度(年次有給休暇を除き、年次有給休暇の賃金相当額の6割以上が支払われるものに限る)を整備し、

② 当該有給休暇制度の内容を新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置の内容とあわせて労働者に周知した事業主であって、

✓ 令和2年5月7日から令和3年1月31日までの間に(※)

③ 当該休暇を合計して5日以上取得させた事業主

(※新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置の告示の適用期間)

## ▶▶助成内容

対象労働者 1人当たり 有給休暇計5日以上20日未満：25万円  
以降20日ごとに15万円加算(上限額：100万円)  
\*1事業所当たり20人まで

## ▶▶申請期間

令和2年6月15日から令和3年2月28日まで

\*雇用保険被保険者の方用と、雇用保険被保険者以外の方用の2種類の様式があります。

\*事業所単位ごとの申請です。

事業主の皆さまには、この助成金も活用しつつ、  
妊娠中の女性労働者が休みやすい環境づくりに努め、積極的な配慮をお願いします。



支給要件の詳細や具体的な手続、支給申請書のダウンロードはこちらから

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_11686.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_11686.html)

都道府県労働局 雇用環境・均等部(室)に

本助成金及び新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置の相談・申請窓口を設置しています

受付時間8時30分～17時15分(土・日・祝日・年末年始を除く)

相談・申請窓口URL：[https://www.mhlw.go.jp/kouseiroudoushou/shozaiannai/roudoukyoku/index\\_00004.html](https://www.mhlw.go.jp/kouseiroudoushou/shozaiannai/roudoukyoku/index_00004.html)

都道府県	電話番号	都道府県	電話番号	都道府県	電話番号
北海道	011-709-2715	東京	03-6893-1100	滋賀	077-523-1190
青森	017-734-4211	神奈川	045-211-7357	京都	075-241-0504
岩手	019-604-3010	新潟	025-288-3511	大阪	06-6941-4630
宮城	022-299-8844	富山	076-432-2728	兵庫	078-367-0700
秋田	018-862-6684	石川	076-265-4429	奈良	0742-32-0210
山形	023-624-8228	福井	0776-22-0221	和歌山	073-488-1170
福島	024-536-4609	山梨	055-225-2851	鳥取	0857-29-1701
茨城	029-277-8294	長野	026-223-0551	島根	0852-20-7007
栃木	028-633-2795	岐阜	058-245-1550	岡山	086-224-7639
群馬	027-896-4739	静岡	054-254-6320	広島	082-221-9247
埼玉	048-600-6210	愛知	052-857-0312	山口	083-995-0390
千葉	043-306-1860	三重	059-261-2978	徳島	088-652-2718



詐欺にご注意ください。国や都道府県労働局から、助成金の相談について電話等で勧誘することはありません。  
また、振込先、口座番号やその他の個人情報や個人の方々に電話等で問い合わせることはありません。





## ▶対象となる労働者

- 新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置として、  
医師または助産師の指導により休業が必要とされた妊娠中の女性労働者

＜新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置とは＞

妊娠中の女性労働者が、保健指導・健康診査を受けた結果、その作業などにおける新型コロナウイルス感染症への感染のおそれに関する心理的なストレスが母体または胎児の健康保持に影響があるとして、医師や助産師から指導を受け、それを事業主に申し出た場合、事業主に、休業など必要な措置を講じることを義務付ける措置。適用期間は、令和2年5月7日から令和3年1月31日まで。

<https://www.mhlw.go.jp/content/11909000/000628247.pdf>



## ▶対象となる有給の休暇制度

- 就業規則における規定の有無、既存の特別休暇の活用

休暇制度の就業規則への規定はこの助成金の要件ではありません。

**既存の特別休暇の対象に含まれることを明示して、労働者に周知することでも対象となります。**

\*ただし、常時10人以上の労働者を使用している事業主が、新たな休暇制度を設けた場合は、労働基準法に基づき、遅滞なく就業規則を変更し、所轄の労働基準監督署に届け出る必要があります。

- 制度の周知方法

**有給の休暇制度と新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置の内容について、**

全ての労働者がその内容を知ることができるよう、適切な方法により周知を行うことが必要です。

(例) ・事業所の見やすい場所に制度の内容を掲示する  
・制度の内容を記載した書面を労働者へ交付する  
・電子メールを利用して労働者に制度の内容を送信する など

- 休暇制度の整備及び周知の時期

令和2年9月30日までに制度整備と周知が必要です。

また、**令和2年9月30日までに制度整備と周知を行えば、制度整備と周知が労働者の休暇取得後であっても対象となります。**

- 欠勤などを、事後的にこの助成金の対象となる有給休暇に変更した場合の扱い

対象となります。ただし、事後的にこの助成金の対象となる有給休暇に変更することについて労働者本人に説明し、同意を得ることが必要です。

## ▶支給額

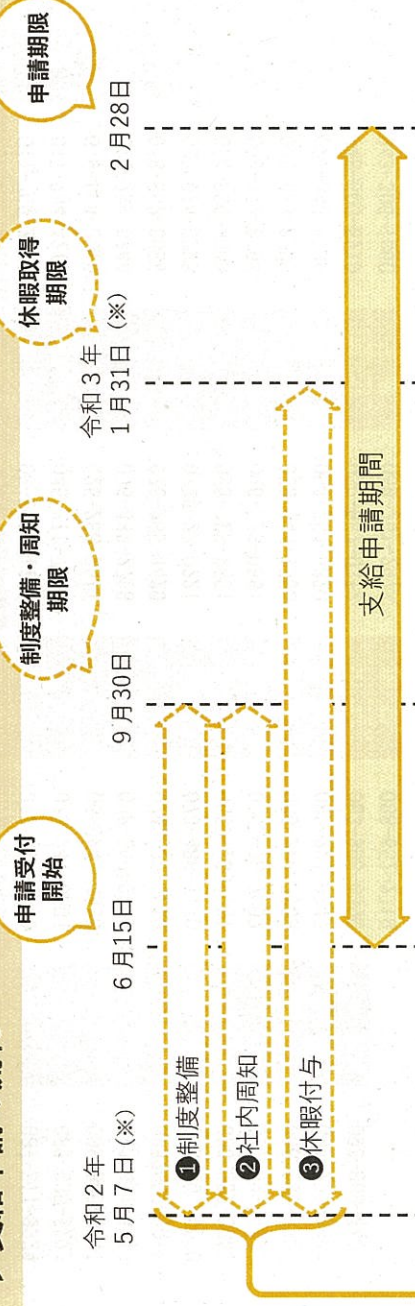
- 連続して休暇を取得していない場合の支給額

連続して休暇を取得していない場合も、令和2年5月7日から令和3年1月31日までの合計の休暇取得日数に応じて支給額が決定されます。

- 同一の労働者について複数回の申請をした場合

2回目以降の申請では、その申請時点での合計の休暇取得日数に応じて支給すべき金額と前回までの申請で支給された金額の差額があれば、差額を支給します。

## ▶支給申請の流れ



「①制度整備」「②社内周知」は、「③休暇付与」後であっても、対象となります。

※令和2年5月7日～令和3年1月31日：新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置の告示の適用期間



## 両立支援等助成金 介護離職防止支援コース 「新型コロナウイルス感染症対応特例」のご案内

新型コロナウイルス感染症への対応として、介護のための有給の休暇制度を設け、ご家族の介護を行う労働者が休みやすい環境を整備した中小企業事業主を支援します。

休暇の取得日数	助成額
合計5日以上 10日未満	<b>20万円</b>
合計10日以上	<b>35万円</b>

### 支給要件

\* 1 中小事業主あたり **5人まで** 申請可能です

- ① 新型コロナウイルス感染症への対応として利用できる**介護のための有給の休暇制度**（※）を設け、当該制度を含めて仕事と介護の両立支援制度の内容を社内周知すること。

※所定労働日の20日以上取得できる制度

※法定の介護休業、介護休暇、年次有給休暇とは別の休暇制度であることが必要です。

- ② 新型コロナウイルス感染症の影響により対象家族の介護のために仕事を休まざるを得ない労働者が、①の休暇を**合計5日以上取得**（※）すること

※対象となる休暇の取得期間は、令和2年4月1日から令和3年3月31日までです。

※過去に年次有給休暇や欠勤により休んだ日について、事後的に①の休暇を取得したこととして振り替えられた場合も対象となります。（振り替える際には労働者本人に説明し、同意が得ることが必要です。）

### 対象となる労働者

- ① 介護が必要な家族が通常利用している又は利用しようとしている介護サービスが、新型コロナウイルス感染症による休業等により利用できなくなった場合
- ② 家族が通常利用している又は利用しようとしている介護サービスについて、新型コロナウイルス感染症への対応のため利用を控える場合
- ③ 家族を通常介護している者が、新型コロナウイルス感染症の影響により家族を介護することができなくなった場合

### ○申請期限○

- ・ **支給要件を満たした翌日から起算して2か月以内** \* 令和2年6月15日より受付開始  
なお、令和2年6月15日より前に支給要件を満たしていた場合は、8月15日が申請期限となります。

### ○申請先○

- ・ 各都道府県労働局雇用環境・均等部（室）

**対象労働者について「介護支援プラン」を策定し支援した場合は、通常の介護離職防止支援コースも併給できます。**

**詳細は裏面を参照**

◎ その他詳しい支給の要件や手続については、厚生労働省HPをご参照いただくか、申請する管轄の都道府県労働局へお問い合わせください。

厚生労働省 介護 新型コロナウイルス

検索



# ＜両立支援等助成金 介護離職防止支援コース＞

「介護支援プラン」を策定し、プランに基づき労働者の円滑な介護休業の取得・復帰に取り組んだ中小企業事業主、または介護のための柔軟な就労形態の制度について、利用者が生じた中小企業事業主に支給します。コースの詳細は以下のとおりです。

介護離職防止支援コース		支給額
A 介護休業	休業取得時	28.5万円<36万円>
	職場復帰時	28.5万円<36万円>
B 介護両立支援制度		28.5万円<36万円>

※＜＞内は、生産性要件を満たした場合の支給額。

新型コロナウイルス感染症対応特例 において、対象労働者について

「介護支援プラン」★を策定し、支援した場合、「A介護休業」の支給対象となります。

## A 介護休業

### ＜休業取得時＞

- 介護支援プランを作成し、対象労働者がそのプランに基づく合計5日（所定労働日）以上の介護休業を取得すること。

※介護休業は法定の介護休業制度のみならず、企業が任意で設けている制度も対象となります。

### ＜職場復帰時＞

- 介護休業を取得した対象労働者を、面談結果を踏まえ原則として原職等に復帰させ、雇用保険被保険者として3か月以上継続雇用していること。

## B 介護両立支援制度

- 介護支援プランを作成し、以下のいずれか1つ以上の介護両立支援制度を対象労働者がそのプランに基づき合計20日以上（\*1, 2を除く）利用し、引き続き対象労働者を雇用保険被保険者として継続雇用していること。

\*1, 2 利用期間が利用開始から6か月を経過する日の間に一定の要件をみたすことが必要

・所定外労働の制限制度	・介護のための在宅勤務制度
・時差出勤制度	・法を上回る介護休暇制度 * 1
・深夜業の制限制度	・介護のためのフレックスタイム制度
・短時間勤務制度	・介護サービス費用補助制度 * 2

## ★「介護支援プラン」について

厚生労働省 仕事と家庭の両立支援プランナー

検 索

労働者の介護休業の取得及び職場復帰を円滑にするため事業主が介護に直面した労働者との面談を実施し、面談結果を記録した上で介護の状況や今後の働き方についての希望等を確認のうえ、作成したプランです。

・プランの作成の際には、厚生労働省HPに掲載している「介護支援プラン策定マニュアル」を参考にしてください。

・プラン策定のノウハウを持つ「仕事と家庭の両立支援プランナー」が中小企業に訪問し、プラン策定支援を無料で行っています。

詳細はHPをご覧ください。



厚生労働省・都道府県労働局